現場で傷病者を発見したときどうするか？（案）

重要！　傷病者を発見した場合周囲の安全をまず確認し2次災害の防止を図ること
また状況をよく観察し応援者を呼び冷静に行動する事

レベル4　直ちに119番通報

・生命の危機が迫っていて緊急性がある
・搬送中にも救命のための手当てが必要
傷病人の氏名・連絡先・所属の確認→家族等への連絡準備

状況	症状と対策
意識が無く 普段どおりの呼吸が無い （心肺停止と判断する）	一次救命処置（成人の場合） ①協力者要請 ②119番通報、AED手配 ③気道の確保→人工呼吸2回 ④胸骨圧迫30回、人工呼吸2回の繰り返し ⑤AEDによる除細動実施 ④、⑤を救急隊員に引き継ぐまで続ける（原則）
心臓発作が疑われる ・心筋梗塞 ・狭心症	椅子に座らせて深呼吸させる　意識を失ったら≪一次救命処置≫ 痛みが胸　、胃の上から始まり左くび、左肩、左腕に広がる　うずくまる　か　ぱったと倒れる あえいだり呼吸困難になる ※　狭心症で本人がニトログリセリン薬を持っているときは服用を介助する それで痛みが治まれば直ぐに病院に行く必要なし
脳卒中が疑われる ・脳閉塞 ・脳出血 ・くも膜下出血	意識障害があれば≪一次救命処置≫ しびれ、脱力、会話不能、突然の激しい頭痛、眼球の動きが異常、顔色赤または青くなる、ろれつがまわらない、 ※正確な発症時刻の確認をする　発症から治療開始までが短時間であれば後遺障害の低減が期待できる
呼吸困難	肺炎、気管支喘息、心臓病他による 顔色蒼白、冷や汗が出る
中毒 硫化水素・酸素欠乏症	一酸化炭素、薬品、有機溶剤他 意識を失ったら≪一次救命処置≫
感電（意識と呼吸無し） 落雷	≪一次救命処置≫
窒息（異物による）	異物の除去　まずは咳をさせてみる 1. 腹部突き上げ法（妊婦・乳児は除く） 2. 背部叩打法　　119番通報依頼
頭部外傷	脳に達する傷がある 頭の骨が一部がくぼんだ 意識障害が長時間続く 次第に意識が不明瞭となる
頭を打って外傷なし	耳、鼻、口などから液体（脳脊髄液）が流出
ひどい火傷	体表面積の20%以上の火傷は重症 ※冷たい水で冷やす（10分以上は冷却しない）
胸のケガ	呼吸困難、血痰など
腹のケガ	傷が腹腔に達しているとき ショックの兆候があるとき ※腸管が腹の外に脱出している場合は押し込まない
頸（くび）のケガ	呼吸困難、発声困難、血痰 その他の異常有る場合 ※刺さったものは抜かない
交通事故	負傷者を救護し、警察に110番通報して必ず病院に行く
第三者傷害	負傷の程度に応じた適切な手段で負傷者に診察・治療を受けていただき相手に誠意を持って対応する

レベル3　急いで医療機関に搬送（119番通報も考慮）

必ずしも救急車で搬送しなくてもよいが急いで
医療機関での診療を受ける必要が有る
専門医による診察が可能か必要な施設を有するか電話で確認の上搬送

状況	症状と対策
呼びかけても反応がない が普段どおりの息が有る	回復体位を取らせてから119番通報
熱射病	高温の環境下で 興奮、錯乱、痙攣、 昏睡などの意識障害 のいずれかと異常な体温の上昇（直腸温39.0℃以上↑） 身体を冷却して直ちに119番通報
動脈性出血 （噴出すような出血） 鮮紅色　瞬間的に多量の血液を失う	緊急に止血する（直接または間接圧迫法） 血液には直接触れないこと 止血が出来ない場合直ちに119番通報
静脈性出血 （湧き出るような出血） 暗赤色 ※大出血（多量出血）	直ぐにに止血する（直接圧迫法） 血液には直接触れないこと 止血が出来ない場合直ちに119番通報 ※体重60キロの人で1.5L（全血液の約30%）の血液を失うと生命に危険がある
骨折及び骨折が疑われる	患部固定の上医療機関に搬送 部位により搬送困難な場合救急車で搬送
アキレス腱切断	下向きに寝かせて搬送 搬送困難な場合救急車で搬送
指の切断	直接圧迫止血実施 ※切断された指は洗わずに ガーゼで包みビニール袋に入れて 氷水を入れた別のビニール袋 に入れて医療機関に持参する
かなりな火傷 感電による火傷	冷たい水で患部を冷やす　塗り薬等使用しない 火傷の程度が不明の場合119番通報
胃、十二指腸の潰瘍 や穿孔、腸閉塞 急性虫垂炎、 急性胆のう炎 腹部のケガ	強い腹痛 顔色蒼白額に汗を浮かべ 脈は弱く早い 一般に腹部は張ったように固く 嘔吐などを伴う 回復体位を取らせる
痙攣（てんかん発作） 5分程度で発作はおさまる 発作中の怪我の防止 発作後の気道確保	突然意識がなくなり、全身が痙攣 呼吸困難、顔色は青、白目をむく、口から泡 本人が薬を持っているときは服用を介助 ※口にものを突っ込まない、回復体位を取らせる

レベル2　出来るだけ早く医師の診療を受けさせる

医師の診療を受けなければ状況の悪化
が考えられる

状況	症状と対策
熱痙攣（ねつけいれん） （大量発汗時水分補給 のみで塩分不足）	高温の環境下で 痛みを伴った筋肉の痙攣で吐き気 や腹痛を伴う、体温変化あまり無い（→） 薄い食塩水等を飲ませる 涼しい場所で休ませる
熱疲労 （大量の発汗に よる脱水症状）	高温の環境下で 疲労感、頭痛、めまい 吐き気などの症状 体温上昇（↑） 薄い食塩水等を飲ませる、涼しい場所で休ませる
喀血（かっけつ）	肺からの出血 咳とともに鮮紅色の出血 呼吸困難を伴えば119番通報
吐血（とけつ）	胃からの出血 食べ物の残りとともに暗紅色の出血
捻挫（歩行困難）	包帯で圧迫することは推奨しない （骨折、不完全骨折等の可能性も考える）
目のケガ （異物が目に入る）	手で目を擦らない、水道水で洗浄 目に刺さった物があっても抜かずに 医師の診察を受ける ※目のケガは視覚障害、失明の 危険性があるので必ず診察を 受ける
凍傷	最初チアノーゼののち赤くなる 凍傷の部分を温める（直接火に 当てない）
小さい火傷	冷たい水で患部を冷やす 塗り薬等使用しない、水泡は潰さない

レベル1　必ず医師の診療を受けさせる

緊急性は高くないが医師の診療を受け
なければ、状況の悪化や回復への影響
が懸念される場合

状況	症状と対策
少出血 （毛細管性出血）	指先を切ったとき 転んで擦りむいたとき 止血後水道水で洗浄する 保護ガーゼを付け細菌感染 を防止する
打撲による 内出血	顔色が青白く脈拍が触れ にくく皮膚がつめたく 湿った感じになったとき
捻挫	歩行可能
頭部外傷	軽く頭を打ち 意識を全く失わず 何も症状が無い 数分～十数分 意識を失った後で気づき その後特別な症状を示さない
頭にこぶ	患部を冷やす こぶをもまない
軽微な火傷	冷たい水で患部を冷やす

☆プッシュホン＃[redacted]（消防テレホンサービス）　東京消防庁（東京都支援）
ダイヤル回線 [redacted]
・救急車を呼ぶべきか判断に迷うとき
・手当て方法のアドバイスを受けたいとき　} 東京都以外からでも相談可
・対応してくれる病院の案内
・必要な場合は救急車の出動手配　} 東京都以外対応不可
＊＊＊＊平成19年度都内救急車搬送者623，012人　その内59.8%は軽症者＊＊＊＊
☆子どもの急病の対処法相談　小児救急電話相談　プッシュホン＃[redacted]　厚労省・都道府県
（東京都の場合　平日17:00～22:00　土日9:00～17:00）
☆つくば中毒110番 [redacted]（9:00から21:00年中無休）[redacted]

※共通事項：状況に応じ患者に回復体位を取らせるようにする
※複数の傷病者がいる場合は症状の重い順に手当を行う

※吐き出したもの、排泄物、飲み込んだもの（容器）、MSDSが有れば医療機関に持参し医師に見せる
※死亡の判断は医師のみが出来る